

第10章 事務組織

【到達目標】 聖学院大学大学院・研究科の充実発展に伴い、教学組織のみならず広報・学生生活・管理運営等をも力強く支える事務室機能を目指す。同時に大学事務局の統括の下で、諸業務の適切な連携分担を図る。以下、この目標実現のために、下記の項目をポイントとして点検評価を行う。

- ① 大学院の充実と将来発展に関わる役割としての事務局機能は充実しているか。
- ② 大学院の教育研究活動を支える独立の事務局体制が整備されているか。

1 大学院事務局体制

1) 大学院運営を支援する事務局体制

- (B: 大学院の充実と将来発展に関わる事務局としての企画・立案機能の適切性)
- (B: 大学院に関わる予算(案)編成・折衝過程における事務組織の役割とその適切性)
- (B: 大学院運営を経営面から支えるような事務局機能の確立状況)
- (C: 大学院の教育研究を支える独立の事務局体制の整備状況)

【現状の説明】 大学院事務室は大学院・総合研究所事務部の中の一部署として、大学事務局内に組織付けられている。しかし、大学院は大学からの「相対的独立」を特長としてカリキュラム面・人的面・管理運営面において、自立的に活動してきており、大学院事務室もこの方針に従った役割を果たしている。すなわち、大学院としての教育研究活動、広報学生募集活動、施設設備管理、学生生活や進路に関する個別の指導や相談対応、さらに大学院の充実と将来の発展に関わる各種企画・立案機能や大学院管理運営については、大学院事務室が独立して事務機能を推進している。ただし、予算(案)編成や折衝さらに経営面における事務局機能は、大学院事務室を統括する大学事務局が担っている。この他に総合研究所事務室は、「事務分掌規程」に「大学院の教員及び院生の研究の事務に関すること」と規定されているように、大学院教員の研究事務を担当している。

【点検・評価】 大学院開設時の1研究科から発展充実し、現在は博士後期課程を含む3研究科を有するまでに拡大した。現在大学院は、管理・運営面において大学からの相対的独立を謳っているため、大学院事務室の業務は大学事務局から分離する傾向が生まれがちとなり、業務負担が広範囲に及んで増大する傾向があることは問題である。

【課題・方策】 大学における管理・運営の効率化を図るためには、大学と大学院の密接な協働体制が求められる。その下で、これまでの大学院の「相対的独立」の実質性を見直し、大学院の管理・運営に関しての新たな再構築が図られる必要がある。これに伴い、大学院事務室の役割も大学事務局の機能の中に明確に位置付けられ、他部署との協働関係を強化する必要がある。